

## 週報①

### 広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2021年												2022年												2023年				
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 ~5日	2月 ~12日	2月 ~19日	2月 ~26日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	34	43	69	64	99	99	47	48	99	77	32	48	7	7	7	8
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	41	37	62	88	90	30	53	40	44	45	81	47	15	7	7	8
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	1	1	10	2	0	2	0	0	1	1	0	0	0
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	3	7	5	5	3	16	12	12	14	5	3	7	0	0	0	1
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	12	25	20	32	22	26	19	13	20	18	11	15	3	3	1	3
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	10	9	19	28	9	17	18	15	16	20	14	13	1	2	6	0
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	1	3	4	1	5	4	1	2	1	0	0	1	0
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	5	7	3	2	2	6	0	0	0	0	0
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	7	2	0	0	1	0	0	0	1	2	14	3	4	1	3

## 週報②

### 広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報 令和5年第8週(2月20日~2月26日)

#### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	6	結核	6			3		2		1
三類	0	発生なし	0							
四類	1	日本紅斑熱	1						1	
五類	12	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2						2	
		シアルジア症	1		1					
		梅毒	9	1	2			4		2
新型インフルエンザ 等感染症	2,797	新型コロナウイルス感染症	2,797	309	296	405	87	892	276	532

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市  
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町  
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

■コメント

1 新型コロナウイルス感染症

第8週に892件の報告がありました。新規感染者数は減少傾向が続いています。感染を再拡大させないため、引き続き感染予防対策を徹底することが大切です。

2 インフルエンザ

定点当たり10.05人の報告があり、減少傾向が鈍化しています。また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖の報告が、第8週に7件ありました。引き続き、マスク着用、手洗い、換気などの感染予防対策を心がけましょう。

迅速診断キット検査結果(市内2か所の協力医療機関による)  
 第8週 A型:100人、B型:1人

3 梅毒

今年の累計は35件となり、感染症法施行以降で最多となった昨年と、ほぼ同じペースで報告されています。梅毒は性的な接触により感染し、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがあります。また、妊娠中に感染すると、胎児に感染し、流産、死産、先天梅毒を起こす可能性があるため、早期発見・早期治療が大切です。

インフルエンザの流行状況(広島市)



梅毒の年間報告数の推移(広島市)



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年平均(注)	発生記号
フィルン	インフルエンザ	372	10.05	7.48	⇒	小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.05	
小児科	咽頭結膜熱	5	0.21	0.25		眼科	RSウイルス感染症	1	0.04	0.37	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14	0.58	1.76			急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	139	5.79	5.94	⇐	基幹	流行性角結膜炎	2	0.25	0.28	
	水痘	2	0.08	0.20			細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	手足口病	1	0.04	0.12			無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	伝染性紅斑	-	-	0.12			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.14	
	突発性発しん	1	0.04	0.24			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	4	0.17	0.04			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.49	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	10	30歳代、80歳代
5	梅毒	4	35	10歳代・1人、40歳代・1人、50歳代・2人